

第1章：聴覚障害について～聞こえないってどういうこと？①

「聴覚障害」とは、音の聞こえに関わる部位に障害があり、音が聞こえない、または聞こえにくい状態のことをいいます。聴覚障害があると、講義を聞くことができない、まわりの人とのコミュニケーションがとりにくいなど、大学生活においても不便が生じます。

《聴覚障害の程度》

聴力 (音の大きさ)	聞こえの程度	
0dB	健聴者が聞きとれる最小の音	軽度
20dB	静かな会話	
40dB	普通の話声	中等度
60dB	大きな声の会話	準等度
80dB	どなり声	重度
100dB	耳元での叫び声	最重度
120dB	かなり近くからのサイレン	

? まったく聞こえないのですか？

ひとくちに聴覚障害といっても、聞こえの程度や聞こえ方は個人差があります。みんながまったく聞こえないというわけではありません。

WHO（世界保健機関）では、両耳の平均聴力が25 デシベル[dB]以上の状態を聴覚障害としています。障害の程度を分類すると、右表のようになります。

? デシベル[dB]とは何ですか？

デシベル[dB]は音の大きさを表す単位です。

健聴者が聞きとれる最小の音の平均を 0dB とし、数字が大きくなるほど大きな音を示します。

「聞きとれる最小の音(域値)」で表すので、数字が大きいほど聞こえにくいということを意味します。

? 聴力レベルが同じだと、皆同じように聞こえるのですか？

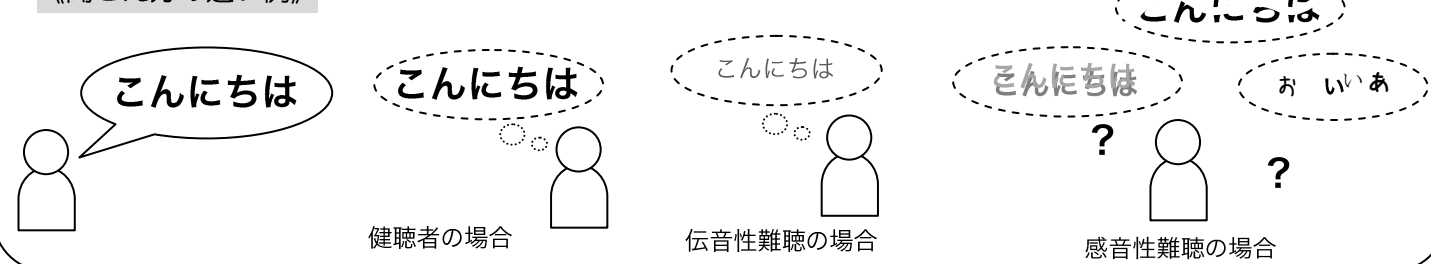
いいえ。同じ聴力レベルの人でも、ある人は音が歪んで聞こえたり、またある人は高い音が聞こえにくかったりと、聞こえの状態は人によってさまざまです。聴力レベルだけで聴覚障害者の聞こえの状態を推測するのではなく、あくまでも目安と考えた方がよいでしょう。

聴覚障害は障害の部位により、大きく伝音性難聴と感音性難聴の2つに分けることができます。

- ◆伝音性難聴…音が小さく聞こえます。
- ◆感音性難聴…音が小さく聞こえるだけでなく、音が歪んだり、途切れたり、高音だけが聞き取りにくかったりします。

これら2つが合併した混合性難聴の場合もあります。一般的には感音性難聴のほうが聴覚障害の程度は重くなります。

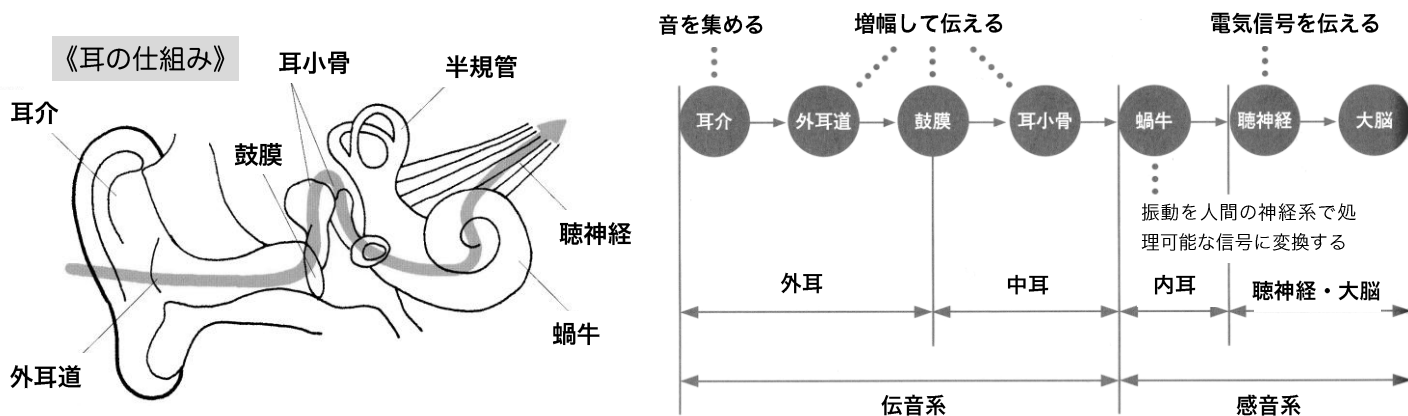
《聞こえ方の違い例》



第1章：聴覚障害について～聞こえないってどういうこと？②

参考 聞こえの仕組みと障害

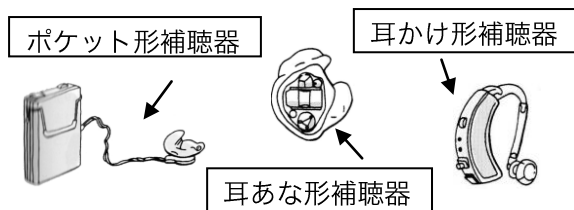
「音」の振動は、耳介→外耳道→鼓膜→耳小骨→内耳へと伝達され、その後、蝸牛で電気信号に変換され、脳に届けられます。音を伝える耳介から耳小骨までを伝音系といい、この部分に障害がある場合を伝音性難聴、音を感じる蝸牛以降を感音系といい、この部分の障害を感音性難聴といいます。



? でも、補聴器を使うと聞こえるんですよね？

補聴器の効果には個人差があります。補聴器は音を大きくして伝える機械なので、音が小さく聞こえる伝音性難聴の人には、効果が期待されると言われています。しかし、感音性難聴の場合、音が歪んでしまうので、「音が存在する」ということはわかって、ことばとして聞き分けることは難しくなります。

また、補聴器は周囲にある音をすべて増幅してしまうため、普段静かな場所では補聴器を通してよく聞こえている人でも雑音がある場所では聞こえにくくなったりします。



? 発音をはっきりしている人はよく聞こえているのですか？

聴覚障害者の多くは、子供の頃から声を出す指導を受けていますが、その明瞭さはまちまちです。

一般的には聴覚障害の軽い人は発音も比較的明瞭なことが多いのですが、発音を身につけた後、聞こえなくなった人の場合、まったく聞こえていなくても発音が明瞭な場合があります。発音をはっきりしているからといって、よく聞こえているとは限りません。

また、聴覚障害者は、聞こえていなくても周りの様子から推測して行動することも多いので、その状態を見て「聞こえているのだろう」と思ってしまうのも誤解のもとです。

[その他の関連語句]

○**聾者と難聴者**：医学的には両耳 100dB 以上の聴覚障害を持つ人を『全ろう』といいます。

また聴力に関わらず、聾学校卒業者や日本手話使用者を『聾者』と呼ぶ場合もあります。

統一された基準はないため、本人が『自分は難聴者』と思うか『自分は聾者』と思うかによって、大きくなります。

○**人工内耳**：内耳に電極を埋め込み、聴覚神経を刺激して音の信号を脳に伝える機器です。補聴器と違い、感音性難聴にも効果があると言われていますが、その効果は個人差があり、リスクもあります。